

平成30年度「授業改善推進プラン」の取り組みについて

大田区立東六郷小学校
校長 岡野 範嗣

本年度実施した、「大田区学習効果測定」の結果及び東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果及び、日常の授業での学習達成状況を、『校内学力向上委員会』を中心に話し合い、分析致しました。児童の学力の定着状況を検証することを通して、児童のつまずきを把握し、具体的な改善方針を明らかにした「授業改善推進プラン」をお示しいたします。

現4年生は、国語・算数・理科・社会ともに平均正答率が、ほぼ全国平均レベルでした。国語の書く能力と算数の知識理解に関しては、微小ではありますが、全国平均を上回りました。一方、社会科は微小、理科においてやや大きく全国の平均を下回る結果となってしまいました。課題である基礎・基本の定着を図るとともに、理科における知識・理解および科学的な思考・判断については、重点的な指導を行い、課題の改善に努める必要があります。

現5年生は、4年時の学力効果測定の結果に対し、国語科において改善が見られました。しかし残念ながら、算数では大きく下降・社会・理科は若干量、下降気味です。特に社会科は、全国平均からの大きく下回ってしまったため、今後は社会科の基礎・基本の定着に向けた復習を重点的に行う必要があります。児童一人一人に、「学びたい」「向上したい」という、学力向上に対するモチベーションを高めていきたいと思えます。

現6年生については、過去3年の結果、理科の学力が毎年向上しています。また、国語も、比較的安定しています。一方、昨年度、飛躍的に向上したこともあって、数値的には4年時の平均値に近い結果となってしまいました。社会と算数が、平均値を下げてしまったことが原因です。改めて、中学進学を前に、算数・社会の基礎・基本の定着を重点にきめ細かい指導を行う必要があります。

4～6年の、今年度の学習効果測定の結果を総合的にみると、本校の**課題の一つ目**は、社会（4年の理科）における知識面の力の低下です。社会科の体験的な学習や、理科の実験を楽しむ一方、知識としての押さえが甘い点が大きな理由と考えます。教えるべきことは、きちんと教え、児童が、「覚えるべきことをしっかり覚える」学習を充実させていきます。**課題の二つ目**は、昨年度同様、算数科における、「数量や図形についての知識・理解」が十分ではありません。今後、基礎的な計算問題の処理だけでなく、「正確さ」「処理速度」「難易度の上がった計算問題の処理」に関する力をつけさせるため、タイプの異なる多様な計算問題を繰り返し処理する場面を増やし、改善を図ってまいります。**課題の三つ目**ですが、5・6年生の各教科における数値は、前年度の同学年児童の結果に対しほぼ横ばいではありますが、全国の平均と比較した場合、若干量ではありますが平均値を下回っており、今後は、全教科において同平均値を上回れるような指導を充実させる必要があります。また、「生活科」「音楽」「図工」「家庭」「体育」についても、児童の実態を分析し、学力向上に向けた改善を図ってまいります。詳細につきましては、次のページ以降に、「各教科の分析」及び「改善策」を提示いたしました。記載の内容をもとに、2学期以降の授業に向け、全教員で授業改善を図ってまいります。

毎年のお願いになりますが、保護者の皆様方には、1・2年生で20分、3・4年生で40分、5・6年生で1時間以上の「家庭学習」にご協力いただき、学校と家庭の教育力を相互に発揮させながらお子さんの学力を伸ばしていければと考えております。学校目標である、「自ら学び考える子」の育成に向け、各ご家庭のご協力をよろしくお願いいたします。

【①国語】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 問題解決的な学習の充実や教材の工夫により、国語に対する興味関心が高まってきている。
- ・ 話し合い活動などの取り組みにより、話の中心に気を付けて聞いたり、発表の内容を相手の意図に気を付けて聞いたりすることができるようになってきている。
- ・ 日々の授業や宿題で自分の考えを書く活動を多く取り入れているため、文を書く力がついてきており、作文が書けるようになってきた。

(2) 課題

- ・ 資料や他の例と関連付けて考えることが苦手な傾向がある。
- ・ 言語について、文の構成やローマ字、修飾語、指示語の理解に課題が残る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 4 学年	標準スコアを下回っている。		
第 5 学年	標準スコアを下回っている。	標準スコアと同程度である。（第 4 学年時）	
第 6 学年	標準スコアを下回っている。	昨年度より向上し、標準スコアと同程度である。（第 5 学年時）	標準スコアを下回っている。（第 4 学年時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ 分からないことや難しいことにも、最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢が見られるようになってきた。	・ 作文については概ねできているが、児童間の差が大きい。調べた結果の表をもとに文章を書く力が弱い。	・ 物語と説明文の読み取りは目標値と同程度である。比較すると、説明文の方が読解できている。	・ 漢字の読みはできるが、書きについては児童間の差が大きい。言葉の学習は目標値をわずかに下回っている。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ 自分なりの考えを、自分の言葉でまとめて書けるようになってきた。	・ 作文は比較的良好にできている。しかし、話し合いや資料をもとにして、内容を書きだす力は目標値と同程度である。	・ 5 年生は物語の読み取り、6 年生は説明文の読み取りに課題がある。	・ 漢字の読みは概ね良くできており、どちらも目標値を上回っている。言葉の学習は目標値をわずかに下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>・声に出して読んだり動作を入れたりしながら、身近なこととして文章の内容を理解させる。また、ゲームや音読劇、発表会などの多様な形で学習したことをまとめ、振り返らせる。</p>	<p>・児童の実態に応じた手本文を用意し、モデルを示す。 ・時間的な順序や場面の様子を考えながら書かせる。</p>	<p>・物語文では、場面の様子や登場人物の行動の変化に着目させ、様子や気持ちを考えながら読ませる。 ・説明文では、簡単なまとめや問い、答えを意識して読ませる。</p>	<p>・平仮名・片仮名・漢字の読み書きを確実に身につけられるよう繰り返し練習させる。</p>

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>・物語の世界に浸ったり、自分の経験を想起させたりして筆者の考えを理解しようとさせる等、具体的なイメージをもって学習に臨めるように教材提示を工夫する。</p>	<p>・文章の構成を意識して書くために、「はじめ・中・終わり」と各段落の内容を構成メモを、使ってまとめさせる。 ・中心をはっきりさせて、文章構成を意識しながら正しく書かせる。</p>	<p>・説明文では、段落や前後の文章、中心となる語や文章を意識して読ませる。 ・資料や表をもとに、文章を書いたり説明したりする活動を積極的に取り入れる。</p>	<p>・漢字のへんやつくりに興味をもち辞書をひく習慣に結びつけたい。 ・主語と述語との関係、修飾語と被修飾語の関係に注意し、文の構成について初歩的な理解をもたせる。</p>

(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>・視覚的に理解できるような教材を多く提示する。また、自分の考えをもっただけでなく、友達の考えを聞き交流する場面を多く設け、多様な考えと比較してより理解を深めさせる。</p>	<p>・文章の内容を的確に押さえ、自分の意見と理由を区別しながら書かせる。</p>	<p>・自分の意見と関連付けながら資料を読み取らせる。 ・読み取った内容や、文章表現に対して、自分の意見をまとめる学習を行う。</p>	<p>・主語、述語、修飾語などを意識して読み書きを行い、基本的な理解を徹底させる。習った漢字の読み書きを文や文章の中で使えるようにする。</p>

【②社会】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・意欲をもって調べ学習を行う姿が、よく見られるようになってきた。
- ・習ったことを生かして、単元のまとめを自分の考えを含めて書けるようになった。

(2) 課題

- ・知識の定着がまだまだである。
- ・資料を目的に応じて読み取ったり、関連付けたりする力が弱い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 4 学年	標準スコアを僅かに下回った。		
第 5 学年	標準スコアを僅かに下回った。	標準スコアを僅かに下回った。 (第 4 学年時)	
第 6 学年	標準スコアを下回った。	標準スコアを僅かに下回った。 (第 5 学年時)	標準スコアを僅かに下回った。 (第 4 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回っている。自分から習っていることを確かめに行ったり、調べたりする姿が多かった。	目標値を上回っている。学習したことを生かして地図に書き込んだり、まとめたりできてきた。	目標値を大きく上回っている。地図に色を塗ったり、細かく読み取ったりする活動を充実させた成果が表れている。	目標値を上回っている。教室掲示を行い、常に社会的事象に児童がふれられる環境を整えた。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を下回っている。調べる対象が広がり、人や事象との距離が広がっていることが原因と考える。	目標値を下回っている。一つ一つの知識は身につけているが、それを関連付けてまとめることはまだ不十分である。	目標値を下回っている。授業では資料の読み取りに力を入れているが、複数の資料を関連付けることはまだ難しい。	目標値を大きく下回っている。都道府県や地図記号など基本的な知識が身につけていないことは改善を図りたい。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
導入の工夫をする。意外性のある資料の精選、見せ方などを工夫した授業を展開する。	単元のまとめの時間を見直す。そこまでに習った内容を確認し、それらをつなげたまとめの文章を作る。そこに学習を通して自分が考えたこと記載するように指導する。	資料の数値を読み取ることはもちろん、グラフの上がり下がりや多い、少ないなどの特徴をつかませる。	都道府県や地図記号は定着するまで何度も確認する。授業で出てきた重要語句は、時間が経ったらまた確認して定着を図る。

（2）高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地図帳を活用し、空間的に位置をとらえる。またデジタル教科書を積極的に利用し、人が見えるようにする。児童と教材の空間的、心理的距離を縮めていく。	単元のまとめの時間を見直す。そこまでに習った内容を確認し、それらをつなげたまとめの文章を作る。そこに学習を通して自分が考えたことを乗せるように指導する。	グラフの上がり下がりや多い、少ないなど読み取り、特徴をつかませる。また複数の資料を関連付ける時は、その共通点や相違点を丁寧に確認していく。	都道府県、地図記号を宿題などで徹底的に定着させる。また単元の中心となることからは教室掲示し、確実な定着を図る。

【③算数】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習課題を明示し、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにすることで、主体的に課題に取り組もうとする姿が多く見られるようになった。
- ・問題の題意を正しくとらえるため、問題文にラインを引きながら問題を解くことを継続的に行うことで、正しく立式できる児童が増えた。

(2) 課題

- ・算数科における基本基本の確実な定着のため、既習事項の振り返り、繰り返し練習、ICTの効果的な活用による学習を積み重ね、児童の理解を高められるようにする。
- ・自力解決後の、ポイントを明確にして児童が対話する場面を取り入れ、自らの考え方を広げたり深めたりできるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 4 学年	目標値は上回るものの、各領域において全国平均を下回っている。		
第 5 学年	目標値と同程度の出来。全国平均正答率を下回っている。	目標値を上回るものの、各領域で全国平均を下回る。(第 4 学年時)	
第 6 学年	目標値と同程度。各領域において、全国平均正答率を下回っている。	28年度と比較すると、全国平均は下回る結果となった。(第 5 学年時)	全国平均をやや上回る結果が見られた。(第 4 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
与えられた課題に対し、熱心に取り組む児童が多い。難易度が高い問いにも関心をもって取り組めるようになるとうい。	問題の題意をとらえて、正しく立式することができる児童は多く見られている。	既習の計算方法を使って正しく計算をしたり、時間の関係を正しく理解したりする力には個人差が見られる。	グラフを活用した数量関係の整理、図形の概念の理解など、身につけている児童が多く、目標値を上回っている。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
意欲的に取り組める児童が多いが、苦	題意をとらえて、正しく立式をしたり、	計算の仕方を身につけている児童が	数のしくみや表し方、図形の性質、グ

手意識が強く、意欲的に成れない児童も見られる。 新たな問題に進んで挑戦する姿勢が見られるとよい。	2つの数の関係を説明したりすることができる児童が多く見られ、目標値を上回っている。	多い。一方で基礎的な技能を繰り返し練習し、定着を図る必要がある児童も見られる。	ラフの読みとりなどの理解が不十分の児童が多く見られる。
---	---	---	-----------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
具体物や半具体物を用いた操作活動を多く取り入れることで、児童が関心をもって課題に取り組めるようにする。	問題文の大切な所に印をつけ、題意を正確に把握できるようにする。 自分の考えを伝え合う活動を通して、考えを広げたり深めたりできるようにする。	数の概念、基本的な計算の型を確実に身につけられるよう、授業の導入で計算カードなどを使い、反復練習を行う。	具体物、絵や図を使って説明する活動や、式と関連づけて説明する活動を行い、正しい知識を身につけられるようにする。

（2）中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日常生活に関連づけた課題、実際の数量を確かめる体験活動により、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。	既習事項を基にして新たな学習に活用することができるよう、既習事項の振り返りを行う。 児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えを広げ、深められるようにする。	計算や作図の基本的な技能をしっかりと身につけることができるよう、繰り返し活動する時間や個別で学習できる場を設ける。	具体物や図を使って説明する活動、式と関連づけて説明する活動を十分に取り入れ、正しく理解し、知識を定着させられるようにする。

（3）高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分の生活との関連他教科や既習事項との関連を踏まえながら、児童が見通しをもって、主体的に学習に取り組めるようにする。	計算や図形の弁別など、根拠をもって、解き方や考え方を説明することができるような場面を設ける。ICTを活用し、考え方を共有する。	基礎的な計算、図形問題に必要な技能を繰り返し練習し、既習事項を次の学習へ応用できるようにする。 数直線などを効果的に活用し、問題解決に役立つ。	具体物や既習事項を活用し、多様な考え方を理解し合うこと、ICT機器を効果的に活用することで、計算処理力や図形弁別力を伸ばしていけるようにする。

【④理科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体験的な学習を積極的に取り入れたことで、意欲につながった。
- ・繰り返し実験を行うことで、正しい実験方法を理解し、目標値より高い学年も見られた。
- ・学年が上がるに連れて正答率は高くなり、学習の積み重ねができています。

(2) 課題

- ・観察や実験によって学力差が見られる。
- ・実験器具の使い方や名称など、普段から使い慣れていないものに対する関心が低い。
- ・実験の意味や方法についての理解が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第4学年	標準スコアを僅かに下回っている。		
第5学年	標準スコアとほぼ同じ。	標準スコアを下回っている。 (第4学年時)	
第6学年	標準スコアとほぼ同じ。	標準スコアを僅かに下回っている。 (第5学年時)	標準スコアを下回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
実験に対する関心は高いが、観察に対する関心は低い。	観察をしたことをもとにして考える学習を苦手としている傾向がある。	実験や観察で使用する器具の正しい使い方についての学習は弱い傾向がある。	全体的に平均を下回る。生命・地球の領域が弱い傾向がある。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自然事象に対する関心は低い。実験に対しては意欲的に取り組んでいる。	自然の事物や現象の変化に関する学習を苦手としている傾向がある。	実験で使用する器具の正しい使い方に関しては、概ねよいが、対照実験の意義への理解が弱い傾向にある。	生命・地球の領域は目標値より高いものの、物質・エネルギーの領域が弱い傾向がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
----------	----------	----	-------

<p>自然に親しみながら継続的・持続的な直接体験を繰り返して積み重ねる学習活動を取り入れる。</p>	<p>対称を比べられるような観察や実験を通した学習活動を取り入れる。</p>	<p>日常的な観察では、以前との共通点や相違点に目を向けるようにする。 児童が立てた予想を基に、それらを調べるにはどのような実験をすれば検証できるか、考えさせるようにする。</p>	<p>まとめの時間を取り入れ、考察やわかったことを自分の言葉でまとめさせ、全体で確認し合うようにする。</p>
--	--	--	---

(2) 高学年

<p>関心・意欲・態度</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>技能</p>	<p>知識・理解</p>
<p>自然の不思議さを自ら対象に働きかけながら結果を追及する学習活動を取り入れる。</p>	<p>実験の前に、その実験の合わせる条件を個人で予想した後、全体で確認し、実験を行うことで見通しをもった学習活動を取り入れる。</p>	<p>観察や実験の技能をできるだけ高めるための記録の仕方や見通しをもった実験を積み重ねる学習活動を取り入れる。 条件制御など実験の目的から、変える条件と変えない条件を明確にする。</p>	<p>学習したことをより発展させて調べ、多くの知識を身につけられるような体験学習を取り入れる。</p>

【⑤生活】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・児童一人一人が、願いや思いをもち、植物を育てる活動を通して、生長の様子を捉え確かな実りを実感することができた。
- ・生活科見学で、身近な自然に触れ合うことができた。(どんぐり拾いなど)
- ・町探検活動を通し、まちの人と触れ合い、自分の居場所をつくることができた。また、同時に地域を大切にしたいとの気持ちを持たせることができた。
- ・1・2年生の交流学习を持つことにより、互いに学び成長することができた。

(2) 課題

- ・四季の変化や季節を感じて、活動する。
- ・自然を利用した遊びや自然の不思議を感じ楽しむ活動を積極的に行う。
- ・公共物や公共施設を利用し、児童の生活に生かす。また、自分以外の人のことを考えて行動する体験を積ませる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

② 高学年

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物に目を向け地域との関わりをもてる活動を設定する。それによって社会の一員としての安全で適切な行動をしようとする態度を育てる。</p> <p>・日常的に動植物にふれる機会をもてるよう工夫する。それにより生命及び自然に対する思考にいたるよう言葉</p>	<p>・多様な児童の発言やしぐさを丁寧に見とるようになる。児童と同じ目線で活動を見守り、指導していく。様々な人との関わりを多くとる。</p> <p>・自分が思ったことを伝え合う時間を十分にとる。また思ったことを表す手段は様々に認め、児童が表現していけるよう支援していく。</p>	<p>・グループ活動は、話し合う活動を十分にとる。また活動から気付いたことや感じたことを発する時間を設け、教師や友達が認めたり褒めたりする機会を多くとるようにする。</p>	<p>・季節を十分に感じられるような活動を多く経験させる。生命及び自然に対する興味や愛情を認め、さらに生命や自然に対する思考に至るような活動や言葉かけを工夫していく。</p>

かけをしていく。			
----------	--	--	--

(2) 中学年

(3) 高学年

【⑥音楽】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・導入でのリズム活動に意欲的に取り組み、拍感を養うことにつながった。
- ・鑑賞活動において、音楽的要素を日頃から提示することで、少しずつ楽曲を聴く力が定着してきた。

(2) 課題

- ・鍵盤ハーモニカの運指やリコーダーのタンギングなど、基礎的な能力の定着を図る。
- ・思いや意図をもって表現する力を、音楽活動全体を通して身に付けていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 4 学年			
第 5 学年		(第 4 学年時)	
第 6 学年		(第 5 学年時)	(第 4 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・導入活動のバリエーションを増やし、児童が楽しみながら拍感や音程感を身に付けられるよう工夫していく。	・曲想から感じ取った音楽の良さを感じ取り、得た知識を表現に繋ぐことができるようにする。	・友達と歌声を聴き合う活動を増やし、無理のない自然な声で歌うことができるようにする。	・身近な楽器に触れる機会を増やし、音色に気を付けながら簡単なリズムや楽器の演奏の仕方を学べるようにする。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・導入活動のバリエーションを増やし、児童が楽しみながら拍感や音程感を身に付けられるよう工夫していく。	・曲想にふさわしい表現を自分なりに考え、演奏にいかせるよう、思いや意図をもって演奏することの大切さを意識した授業を展開する。	・歌唱では、発声の方法を身に付け、響きのある声を作っていく。簡単な二部合唱やパートナーソングを活用し、声を合わせる楽しさや良さを体得させていく。	・音楽を形づくっている要素の中から、児童が感じ取りやすいものを示し、苦手意識をもたずに知識理解を深めていけるようにする。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・導入活動のバリエーションを増やし、児童が楽しみながら拍感や音程感を身に付けられるよう工夫していく。	・曲想から感じ取った音楽の良さを、音楽的要素と関連付けて考え、それらを表現の工夫に生かしていけるようにしていく。	・歌唱では、呼吸及び発音に気を付けながら、豊かな響きで合唱する良さを感じ取らせる。器楽では、基礎を大切に、美しい音色で演奏ができるようにする。	・音符や休符、記号など音楽に関わる用語について、親しみやすい楽曲を活用しながら理解を深め、音楽活動に生かしていく。

【⑦図画工作】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・
- ・
- ・

(2) 課題

- ・
- ・
- ・

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 4 学年			
第 5 学年		(第 4 学年時)	
第 6 学年		(第 5 学年時)	(第 4 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
進んで表したり見たりして造形活動を楽しめるよう、親しみやすく身近にある多種多様な材料を扱い、体を使ってのびのび取り組める 素材体験 活動を増やしていく。	感じたことや想像したこと、表したいことを見つけて表せるよう、造形遊びの中で楽しみながら試していく活動を多く取り入れる。	手や体全体の感覚や技能を働かせてつくる活動を多く設定し、身近な材料や扱いやすい用具で色や形を試しながら、経験的に技法を身につけさせていく。	身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取る 場面づくりを意識し 、自分や友人の作品を見合い、触れたり遊んだりする活動を増やしていく。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
進んで表現したり鑑賞したり、つくり出す喜びを味わえるような 題材選び と、友人と共に活動することを楽しみながら、目的や面白さ、 学習 ルールなどを共有できる活動を工夫し組み込んでいく。	身近な材料や場所などを基に発想してつくることのできるよう、教室以外の場も活用し 学習環境 に変化を持たせる。 発想してつくる時にみんなで話し合い、考えを共有できるような場面を設定していく。	前学年までの材料や用具についての経験と既習に重ねて、新しい用具を正しく安全に 使う ための基礎技術と、表現によつての使い分けができるよう、繰り返し習得させていくことに時間をかける。	自分たちの作品をはじめ身近な美術作品や製作過程などを鑑賞し、そのよさや面白さ、感じたことや思ったことを友人と話し 合える 場面を設定し、多様な表し方や材料による感じの違いを体験できるように する 。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
感じたこと、 想像 したこと、見たこと、伝えたいことから、 自分の 表したいことを見つけて表せるよう、児童なりのテーマを持たせ、イメージと見通し (計画) を確認しながら活動する。	材料や場所の特徴を基に構成したり、自分が表したいことや伝えたいことを見つけて構想したりできるよう、作品により思い入れを 持ちやすい 題材を設定し、目的や用途に目を向けて考えさせていく。	表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、自分の表現に適した方法を選択したり、組み合わせたり、または友人と互いに手伝い合いながら つくる ことができ るよう、活動環境 を整えていく。	自分たちの作品や我が国や諸外国の美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞からよさや楽しさを感じ取らせるため、自分が感じたことや思ったことを友人と話し合 って共有 できる 鑑賞 場面を設定していく。

【⑧家庭】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・衣食住などに関する実践的・体験的な活動への関心は高く、技術面で個人差はあるものの調理・裁縫などの実習に意欲的に取り組む児童が多かった。
- ・家庭での実践の宿題によく取り組み、家庭からの励ましで意欲を高めている児童が多かった。

(2) 課題

- ・家庭における自らの役割が明確でなかったり、生活実感が乏しかったりするためか、児童の主体的創意工夫は十分とはいえない。学校で身に付けた知識や技能を家庭で繰り返し実践するよう、意欲を高めていくことが必要である。また、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できることが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第4学年			
第5学年		(第4学年時)	
第6学年		(第5学年時)	(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

② 高学年

関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についてのおける知識・理解
学校での体験的学習にはどの児童も意欲的に取り組んでいた。しかし、家庭生活では他律的な生活をしている児童が多い。 家族や地域の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる必要がある。 また、校内での清掃活動において、学校生活を	家庭生活に興味をもっている児童は問題点に気づき、よりよくしようと工夫している。しかし、生活経験の差が大きく、与えられた課題には確実に取り組むが、自分から「こうしよう」「こんな方法はどうか」等考えることが苦手な児童が多い。課題をこなすだけ	調理・裁縫とも意欲的に取り組んでおり、学習の中で技能を身に付けている。しかし、家庭生活への関わりが少ない子の技能は低く、習熟度は個人差が大きい。個人差に合わせた技能習得場面の設定が必要である。	生活をよりよくしていこうとする意識に個人差があるため、知識・理解面の定着率にも影響している。そこで、問題解決型学習の充実、及び、学習した内容と実際の生活との結びつきを強くした指導が必要である。

<p>より快適に過ごすために、意欲的に清掃活動に取り組ませる必要がある。</p>	<p>でなく、生活をよりよくしていけるよう創意・工夫を考えさせる学習が必要である。そして、考えたことをもとに1食分の食事の献立を考えたり、校内を掃除する際に掃除の仕方を工夫したりするなど、日常生活に生かしていく必要がある。また、家庭への協力依頼も必要と考える。</p>		
--	--	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（3）高学年

関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についてのおける知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活を振り返り、家族の一員としての意識を高め、習得した知識を生活に生かせるような体験的学習を行う。 ・長期休業中を含め、家庭での実践を計画的に取り入れる。 ・児童が関心を持ち、楽しく取り組んでいけるよう題材や資料などを工夫する。 ・各家庭で実践している調理や掃除の工夫をインタビューする活動を取り入れ、課題に関心をもって取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分の知識や技能を生かせる学習の場を設定する。 ・子どもたちの発想を生かした授業の工夫に取り組む。 ・校内の清掃活動中の様子や給食の配膳時の盛りつけ方など児童の工夫を確実に見取り、賞賛の言葉かけをしたり、学級全体に紹介して広めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に合わせた技能習得の場面を設定し、習熟度に合わせた指導に取り組む。 裁縫 ・目的に応じた手縫いができることを重視する。（5年） ・ミシン技能を重視する。（6年） 調理 ・調理手順の習得を重視する。（5年） ・調理計画を立てることを重視する。（6年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的、体験的活動では、製作や調理などの実習に加え、観察・調査も取り入れ、実感を伴って理解できるようにする。用語・用具の使い方の理解も重視していく。 ・児童自らが課題を設定し、解決のため学習を進める問題解決型学習を行うことで、学んだ知識をより深く理解できるようにする。また、課題設定や実習後のまとめの時間は教師が確実に確保し、児童が主体的な学習ができるよう支援する。

【⑨体育】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・限られた広さの中で体を十分に動かし、ルールや規則を守って運動に取り組めるようになってきた。
- ・体の動かし方や運動の仕方を理解することで運動ができるようになってきた。
- ・めあてをはっきりさせて学習に取り組むことで、運動を楽しく行い、意欲的に活動できるようになってきた。
- ・グループで教え合ったり、励まし合ったりする関わり合いを重視することで、友だちと仲良くし、きまりや活動を工夫できるようになってきたこと。
- ・健康の大切さを認識し、手洗いやうがい、水分補給を実践できるようになってきた。

(2) 課題

- ・運動に取り組む子とそうでない子の二極化が課題である。
- ・さらに協力し合ったり、公正な態度で運動を行ったりできるようにすること。
- ・さらにバランスのよい体力向上のため、筋力・柔軟性・敏捷性・全身持久力を高めることが必要であること。
- ・日常的に運動を実施していない児童に運動を習慣化させること。
- ・心の発達や悩みへの対処について理解し実践できるようにすること。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第4学年			
第5学年		(第4学年時)	
第6学年		(第5学年時)	(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

<p>・めあてを明確にし、運動を楽しく行い、体を動かす楽しさを味わえるよう取り組む。</p>	<p>・だれとでも仲良くし、健康・安全に留意して運動できるよう取り組む。</p>	<p>・器械器具を使っての運動遊び、走・跳の運動遊び、水遊びを通じて、基本的な動きを身につけるよう取り組む。</p>	
--	--	--	--

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>・めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動を楽しくできるように取り組む。</p>	<p>・協力・公正の態度を育てるとともに、健康安全に留意し、きまりを守って誰とでも仲良く運動したり友達の考えを認めたりして最後まで努力して運動できるよう取り組む。</p>	<p>・器械運動、陸上運動、体づくり運動、ボール運動、浮く・泳ぐ運動に取り組み、その基本的な動きや技能を身につけられるよう取り組む。</p>	<p>・健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営むことができるよう取り組む。</p>

(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>・めあてを明確にし、それを基に、進んで教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体力を養えるよう取り組む。</p>	<p>・協力・公正の態度を育てるとともに、健康安全に留意し、約束を守り助け合って運動をしたり仲間の考えや取組を認めたりし、自己の最善を尽くして運動できるよう取り組む。</p>	<p>・器械運動、陸上運動、体づくり運動、ボール運動に取り組み、その特性に応じた基本的な技能を身につけられるよう取り組む。</p>	<p>・心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を送ることができるよう取り組む。</p>